



下野新庁舎アートワーク『ふくべたちの庭』完成記念トークイベント

ひらかれた広場にむけた“2.0”のアートワークをつくる ～アート・ローカリティ・エンゲイジ・人びと～

2016 5月19日 木 18:30 ～ 20:00

会 場：3331 アーツチヨダ B1 マルチスペース

※会場へのアクセスはウェブサイトをご覧ください。 <http://www.3331.jp/access/>

定 員：30名程度

参加費：無料（懇親会にご参加の場合は1,000円）

この度、アート&ソサイエティ研究センターでは、新市庁舎のためのパブリックアートをディレクションいたしました。

21世紀、日本社会におけるパブリックアートのすがたはどんな形なのでしょう？20世紀までのすがたを「1.0」とすると、これから求められるすがたは「2.0」とたとえることができます。1.0が作品ありき、完成で終わりのあり方だとすると、2.0では「市民生活」がキーワードです。制作プロセスへの市民参加は当然のこと、何十年もそのまちに存在し、次世代に引き渡されるパブリックアートゆえに、できあがった後にも市民といかに関わりを持てるか、人びとと“つながる”の視点が大切になります。

栃木県下野市は3町が合併して10周年を迎えた新しい市です。新市庁舎を訪れる市民のために、どんなアートワークが必要か。その課題に向けて、生産量日本一を誇る市の特産品「かんぴょう」に着目し、その実「ふくべ」をテーマとすることを選んだアーティストたち。何を考え、どのような理想を抱いて制作にのぞんだのでしょうか？

やわらかい表情の完成作品からはうかがい知れない、完成までの紆余曲折、さまざまな壁に対処した方法など、本トークでは、建築と広場の設計者と共にアーティストたちからその声を聴き、現代社会のパブリックな空間におけるアートワークのあり方を探ります。

ト ーク 参 加 者

香月卓也（佐藤総合計画、下野新庁舎設計者）
新井敦夫（SORA Synesthetic Design Studio 代表）
菅野麻依子（アーティスト）
松本大輔（ライティング・アーティスト）
清水裕子（A&Sアート・ディレクション）

モデレーター：工藤安代（A&S 代表理事）

【お申込み方法】

「氏名/人数/連絡先/懇親会の参加希望の有無」を本文中に明記いただき、タイトルを「アートワーク完成記念トーク・イベント参加希望」として下記メールアドレスにお申し込みください。

※いただいた個人情報は責任を持って適切に管理いたします。

Email: info@art-society.com

特定非営利活動法人
アート&ソサイエティ研究センター
<http://www.art-society.com/>


ART & SOCIETY
RESEARCH CENTER